



日本保全学会

東北・北海道支部

ニュースレター NO.13

2018.6

Editor

日本保全学会
東北・北海道支部
広報・会員委員会

Contact

Mail :

north.com@jism.or.jp

Tel & Fax :

022-211-9889

Address :

〒980-8579

仙台市青葉区荒巻字青葉

6-6-01-2

東北大学 大学院工学研究科

量子エネルギー工学専攻内

URL :

www.jism.or.jp/branch/index.html

日本保全学会東北・北海道支部第10回総会並びに 設立10周年記念特別講演会及びポスターセッションのご報告

日本保全学会 東北・北海道支部 支部長 橋爪 秀利

日頃より、日本保全学会東北・北海道支部の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。第10回支部総会並びに設立10周年記念特別講演会及びポスターセッションを開催しましたので、ここにご報告申し上げます。

日本保全学会東北・北海道支部第10回総会

■日時 : 平成30年5月11日(金) 11:00~12:00

■場所 : 北海道大学学術交流会館第3会議室

■概要 : 総会出席者数は、委任状を含めて83名(支部会員総数141名)であり、総会成立要件である支部員数の1/3以上の定足数を満たしました。審議結果は以下の通りです。

- 1) 第1号議案:平成29年度事業報告がなされ、承認された。
- 2) 第2号議案:平成29年度決算報告がなされ、承認された。
- 3) 第3号議案:平成29年度監査報告がなされ、承認された。
- 4) 第4号議案:平成30年度事業計画案が提示され、承認された。
- 5) 第5号議案:平成30年度予算案が提示され、承認された。
- 6) 第6号議案:平成30-31年度支部役員・委員案が提示され、承認された。



橋爪支部長挨拶



会場の様子

特別講演会

■日時 : 平成30年5月11日(金) 13:00~14:05

■会場 : 北海道大学学術交流会館第3会議室

■概要 : 支部設立10周年記念行事として、青木 孝行 先生(東北大学)の司会により、以下の特別講演が行われました。

1) 講演1「保全学会の今後の動向」



宮 健三 理事長(日本保全学会)より講演があり、以下の提言がなされました。

・原子力の衰退は福島事故後着実に進んでいる。適合審査に対する隠忍自重だけで良いのか。

・規制委員会・規制庁の風土・意識の改革を図るためには、新しい手法に基づいた理論武装が必要。そうでないと日本の原子力に将来はない。

・機械学習・人工知能の活用で規制環境(裁量性の最小化)を変えなければならない。

・保全学の構築は新技術・論理学の応用に関する研究を活性化させることで進化を促進する。



日本保全学会

東北・北海道支部

ニューズレター NO.13

2018.6

Editor

日本保全学会
東北・北海道支部
広報・会員委員会

Contact

Mail :

north.com@jsm.or.jp

Tel & Fax :

022-211-9889

Address :

〒980-8579

仙台市青葉区荒巻字青葉
6-6-01-2

東北大学 大学院工学研究科
量子エネルギー工学専攻内

URL :

www.jsm.or.jp/branch/index.html

2) 講演2 「原子力規制の大変革と保全学会の役割」



奈良林 直 会長（日本保全学会）より講演があり、保全学会の今後の取組みとして以下の項目が示されました。

・米国 ROP を取り入れた規制の大改革の時代に入り、検査官の悪代官を撲滅する必要がある。

- ・事業者検査と規制検査がともに良い方向に向かうようにするためには、適切な保全重要度分類、潜在的にリスクの高い系統や事象の抽出とその対策、コンフィグレーション管理等の評価事例策定などを推進する。
- ・SA 設備の OLM 実施に向けては、一つの設備が待機除外中に他設備が十分なバックアップ機能を有すること、または有意なリスクの増加が無いことを示し、OLM の実施を実現していく。

3) 講演3 「支部設立の経緯と支部活動の意義について」



高木 敏行 先生（支部監事、前支部長）より講演があり、支部設立の詳細な経緯並びに支部活動の意義・重要性及び今後の課題等について説明がありました。

・東北・北海道支部は、2007年12月6日に設立準備委員会が設置され、2008年10月10日に設立された。

- ・原子力発電所の再稼働後の保全活動と福島第一原子力発電所の廃止措置に支部活動の貢献が期待できる。
- ・若い技術者や学生が、これからの保全科学や保全技術のリーダーや実績者になれるよう、支部活動の更なる活性化が必要である。
- ・支部の運営経験を、他の支部の開設につなげる。

4) 講演4 「福島の現状を踏まえた支部活動を期待して」



杉山 憲一郎 先生（支部幹事）より講演があり、保全社会的視点に基づく原子力の健全な発展のための改善方向として、以下の説明がありました。

・福島県での最高被ばく値は25mSvと報告されているが、現在の医学の知識に基づけば、生活習慣の改善で「がんによる、心理的・精神

生涯死亡確率」のリスクを下げるのが可能であり、心理的・精神的な影響が最も大きいと報告されている。

- ・更に低い低線量率被ばく（例えば1mSv/年）では、その他の多くの要因の中に被ばくの効果は隠れてしまう。⇒対費用の観点も含めて、「食品の基準値」と「現在被ばく状況の目標値」は考え方を含めて改善されるべきである。



日本保全学会

東北・北海道支部

ニュースレター NO.13

2018.6

Editor

日本保全学会
東北・北海道支部
広報・会員委員会

Contact

Mail :

north.com@j-sm.or.jp

Tel & Fax :

022-211-9889

Address :

〒980-8579

仙台市青葉区荒巻字青葉

6-6-01-2

東北大学 大学院工学研究科

量子エネルギー工学専攻内

URL :

www.j-sm.or.jp/branch/index.html

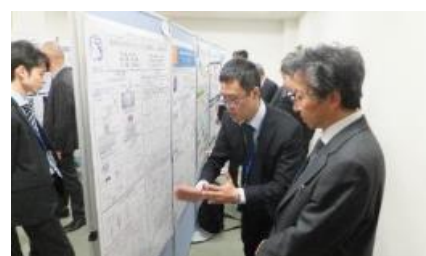
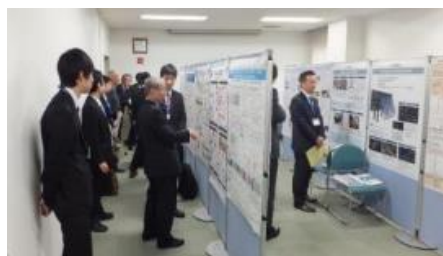
ポスターセッション

■日時 : 平成30年5月11日(金) 14:20~15:40

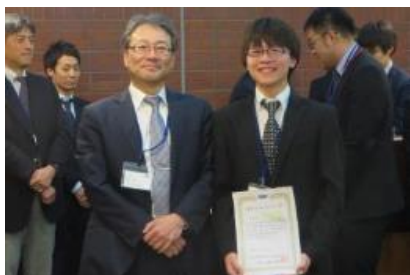
■会場 : 北海道大学学術交流会館第2会議室

■概要 : 支部設立10周年記念行事として、支部総会としては初めてポスターセッションを企画しました。ポスターセッションでは、大学及び産業界より合計20件の発表があり、発表者及び参加者間での活発な質疑応答と意見交換が行われました。

また、今回は、学生のポスターセッションを対象に発表内容の審査を行い、優れた発表者として東北大学 陳偉熙氏および東北大学 中河良太氏に優秀プレゼンテーション賞が授与されました。



ポスターセッションの様子



東北大学・陳偉熙氏



東北大学・中河良太氏

(優秀プレゼンテーション賞)



日本保全学会

東北・北海道支部

ニュースレター NO.13

2018.6

Editor

日本保全学会
東北・北海道支部
広報・会員委員会

Contact

Mail :

north.com@jssm.or.jp

Tel & Fax :

022-211-9889

Address :

〒980-8579

仙台市青葉区荒巻字青葉

6-6-01-2

東北大学 大学院工学研究科

量子エネルギー工学専攻内

URL :

www.jssm.or.jp/branch/index.html

講演

■日時 : 平成 30 年 5 月 11 日 (金) 15:50~17:20

■会場 : 北海道大学学術交流会館第 3 会議室

■概要 : 森 治嗣 先生 (北海道大学) の司会により、以下の講演が行われ、活発な質疑応答が行われました。

1) 「大学における廃止措置基盤研究と人材育成」

渡邊 豊 先生 (東北大学) より、東北大学「原子炉廃止措置基盤研究センター」の体制、研究のトピックス、人材育成への取り組み等に関する説明がなされました。

2) 「柏崎刈羽原子力発電所における保全の取り組み」

山下 理道 氏 (東京電力ホールディングス (株)) より、柏崎刈羽原子力発電所において安全性向上の観点から取り組んでいる非常用ディーゼル発電機の保全方法等に関する説明がなされました。

3) 「量子ビームでがんを狙い撃つー最先端陽子線がん治療装置についてー」

梅垣 菊男 先生 (北海道大学) より、北海道大学病院陽子線治療センターにおける最先端陽子線がん治療装置並びに世界初の動体追跡照射機能 (動く腫瘍をリアルタイムで捉えて迎撃照射) の概要に関する説明がなされました。



渡邊 豊 先生



山下 理道 氏



梅垣 菊男 先生

懇親会

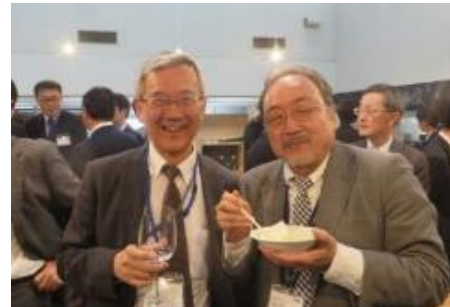
■日時 : 平成 30 年 5 月 11 日 (金) 18:00~19:30

■会場 : 北海道大学百年記念会館 レストラン北大マルシェ

■概要 : 懇親会では、会場の各所で活発な意見交換が行われ、支部員同士の親睦を深めました。



懇親会の様子 (その 1)



懇親会の様子 (その 2)